

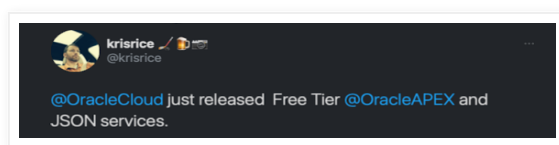
# 日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2021年4月21日 水曜日

## Always FreeのAPEXサービスとAutonomous JSONの提供開始

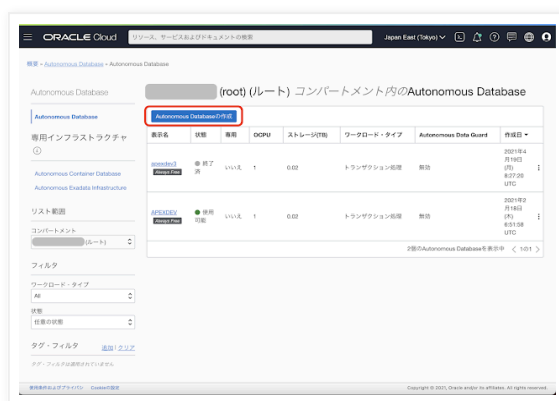
Twitterを見ていたら、Kris RiceさんがAlways Free - 永年無料のAPEXサービスとAutonomous JSONがリリースされたとつぶやいていました。



早速、東京リージョンで確認してみました。

Autonomous Databaseとしては2つまで、という制限は変わりません。ですので、APEXサービスを作成するために、すでに作成済みだったサービスを終了しています。

**Autonomous Databaseの作成**を実行します。



**ワークロード・タイプの選択**でAPEXを選びます。

### Autonomous Databaseの作成

#### Autonomous Databaseの基本情報の指定

コンパートメント  
prod0 (ルート)

表示名  
APEXSRV

データベース名  
APEXSRV

名前には、英字と数字のみを含めて、英字で始める必要があります。最大14文字です。

#### ワークロード・タイプの選択

データ・ウェアハウス

意思決定支援およびデータ・ウェアハウス・ワークロード用に構築されています。大量のデータに対する高速な問合せです。

トランザクション処理

トランザクション・ワークロード用に構築されています。短時間の問合せとトランザクション用の高並行性です。

JSON

JSON中心のアプリケーション開発用に構築されています。開発者が使いやすいドキュメントAPIおよびネイティブJSONストレージです。

APEX

Oracle APEXアプリケーション開発用に構築されています。ロー・コード・アプリケーションの作成およびデプロイメントです(データベースが含まれます)。

#### デプロイメント・タイプの選択

共有インフラストラクチャ

共有Exadataインフラストラクチャ上でAutonomous Databaseを実行します

専用インフラストラクチャ

専用Exadataインフラストラクチャ上でAutonomous Databaseを実行します。

専用ExadataインフラストラクチャはAlways Free Oracle Autonomous Databaseには使用できません。

データベースを構成します、の項目のAlways FreeをONにすることができます。

### データベースを構成します

Always Free ①

Always Freeの構成オプションのみを表示

① お客様のAlways FreeのAutonomous Databaseにおいて7日間連続でアクティビティがなかった場合、データベースは自動的に停止します。データは保持されるため、データベースを再起動すれば引き続き使用できます。データベースが3か月間停止したままの場合、再利用されます。 [詳細](#)

データベース・バージョンの選択

19c

CPU数 読み取り専用

1

Always FreeのAutonomous Databasesで利用できるコアは最大1コアです。CPUコアの数は整数でできません。

ストレージ(TB) 読み取り専用

0.02

Always FreeのAutonomous Databasesで利用できるストレージは最大0.02TB (20GB)です。ストレージは整数でできません。

☐ 自動スケーリング

ワークロードの増加に応じて、プロビジョニングコア数の3倍まで使用することをシステムに許可します。 [詳細](#)

後はパスワードを設定して、Autonomous Databaseの作成をクリックすると完了です。

### 管理者資格証明の作成 ①

ユーザー名 読み取り専用

ADMIN

ADMINユーザー名は英字でできません。

パスワード

パスワードの確認

### ネットワーク・アクセスの選択

アクセス・タイプ

指定されたIPおよびVCNからのセキュア・アクセスを許可

特定のIPアドレスおよびVCNに対するアクセスを制限できます。

仮想クラウド・ネットワーク

VCNを使用するプライベート・アクセス専用です。

仮想クラウド・ネットワーク・オプションはAlways Free Oracle Autonomous Database-インスタンスには使用できません。

☐ アクセス制御ルールの構成 ②

### ライセンス・タイプの選択

ライセンス持込み(BYOL)

組織のOracle Databaseソフトウェア、ライセンスをデータベース・サービスに使用します。 [詳細](#)

ライセンス込み

新しいOracle Databaseソフトウェア、ライセンスとデータベース・サービスをサブスクリブします。

ライセンス持込みのBYOLはOracle Autonomous APEX Databaseには使用できません。

### 最大10件のメンテナンス連絡先の指定

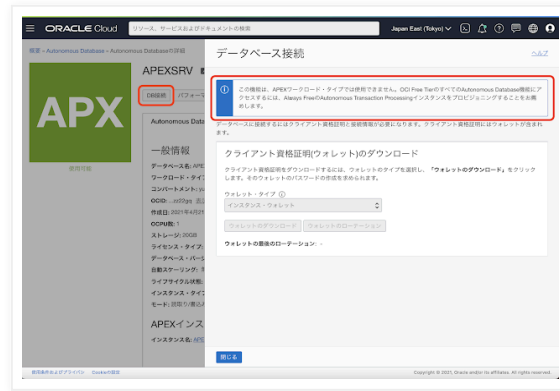
連絡先の追加

② 拡張オプションの表示

Autonomous Databaseの作成 取消

インスタンスは1分弱で作成されました。作成されたデータベースへ直接接続できないことがAPEXサービスとその他のAutonomous Databaseとの違いです。つまり、**DB接続**をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。

この機能は、APEXワークロード・タイプでは使用できません。OCI Free TierのすべてのAutonomous Database機能にアクセスするには、Always FreeのAutonomous Transaction Processingインスタンスをプロビジョニングすることをお勧めします。



Always Freeを使っている限り、APEXサービスはDB接続のできないAutonomous Transaction Processingなので、積極的に選択する意味は少ないです。

将来、有料サービスにアップグレードする可能性があれば、最初からAPEXサービスで作成して使い始めるのがお勧めです。価格表を確認するとわかるようにAPEX Development Serviceは10CPU/時間は38.721円でADBの161.292円より、ずっと低価格になっています。38.721円というのは、ADBでBYOL(Bring Your Own License)したときの価格と同じです。

Autonomous JSONデータベースも同様にAlways Freeが選択できるようになっています。



APEXサービスと同様にAlways Freeで使い続けるのであれば、積極的に選択する意味は少ないです。しかし、こちらも価格はAPEXサービスと同じく38.721円ですので、アップグレードを考えている場合は最初からAutonomous JSONを選択するのが良いでしょう。

同じ機能であれば、低価格で使えるに越したことはないように思います。

完

Yuji N. 時刻: 11:01

共有

[ウェブ バージョンを表示](#)

#### 自己紹介

**Yuji N.**

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。  
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.

---